

# だいいく通信 第六十二号 「夏の声」

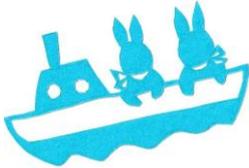
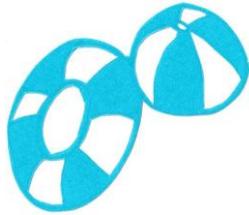
ひょうりゃん

世界情勢がますます緊迫の度合いを強めています。強い力をもつ国の専横に世界中が振り回されていて、報道を見るのがつらい日々です。こんな時こそご神前で心を落ち着けるひと時が必要なのだと痛感いたします。

また、今年は六月半ばにいきなり猛暑日となり、いつにもまして暑い夏を迎えそうな気配です。皆様にはくれぐれもご自愛くださいませ。

社報「だいいく通信」第六十二号をお届けします。

今回の内容は、当神社の最新情報をお伝えする「大國神社の今」、神社に関する豆知識をお伝えする「お宮あれこれ」、オリジナル・キャラクターたちが活躍する連載まんがなどです。お楽しみいただければ幸いです。



## 大國神社の今

○だいいくクラシックスを開催しました。

去る五月二十四日、当神社拜殿にて第7回だいいくクラシックスを開催しました。東京都交響楽団第一ヴァイオリン奏者田口美里さん、同じく東京都交響楽団ヴァイオリン奏者小林明子さんのお二人によるデュオ・コンサートでした。バッハの Goldberg 変奏曲より、テレマンのファンタジー、イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタ第五番、そして、ロッラの「デュオ・コンチェルタンテ」と、充実のプログラム。お二人のお話しも交えつつ、ヴァイオリンとヴィオラ、二つの弦楽器の音色をじっくりと味わうひと時でした。ご出演の田口さん、小林さん、ご来場くださいましたみなさま、ありがとうございます。だいいくクラシックスは今後も継続開催の予定です。どうぞご期待くださいませ。



田口美里さん ©T.Tairadate



小林明子さん

## お宮あれこれ〜天の川の話〜

不定期でお伝えしております、星の話のシリーズ。まもなく七夕ということ、今回は「天の川」についてお話ししたいと思います。

「天の川」は銀河の別名で、銀河系宇宙の星の渦巻のへりの部分が、あたかも天上を流れる川のように見えるためにこう呼ばれます。

奈良時代の「万葉集」に収められた山上憶良の七夕の歌の一つに、次の歌があります。

「天の川相向き立ちて我が恋ひし君来ますなり紐解き設けなす（天の川に向き合っ  
て立ち わたしが恋しく思っていた あ



の方がいらつしやるらしい 紐をほどいて準備しよう」  
(巻八 一五一八)

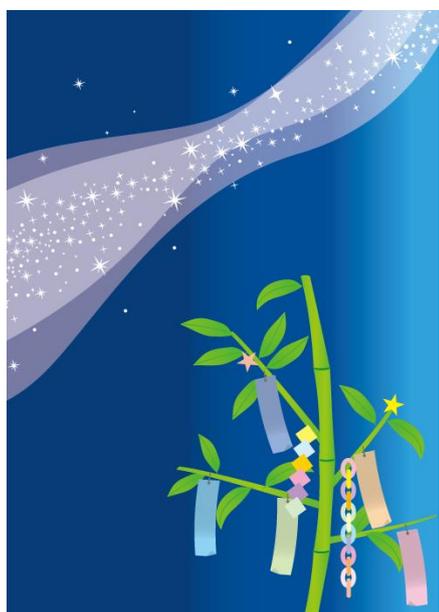
この歌の元の漢字表記では、「天の川」に「天漢」という文字が当てられています。また、平安時代の辞書である「和名抄」には次のような記述があります。

「天河 兼名苑云天河一名天漢（今案又一名漢河 又一名銀河 也 和名阿万乃加波）」

これをみると、当時、中国語の「天河」「天漢」ということが知られていたことがわかります。古代中国では、漢水（長江最大の支流。漢江とも呼ばれます）の気が天にのぼって天の川となったと考えられていました。「漢」という文字が用いられているのはそのためです。なお、「和名抄」にみられる「阿万乃加波」という万葉仮名から、古くは「あまのかは」と、濁らずに読まれていたことがうかがわれます。

さて、中国と同じように、日本でも古くから天の川を天上の川とみていたと考えることができま  
す。そして中国から伝わってきた七夕説話によって天の川は一般の民衆にも親しい存在と感じられるようになりました。

例えば奄美大島には、次のような説話が残っています。ある男が天の女性を妻にめとります。しかし、妻は故郷である天に帰



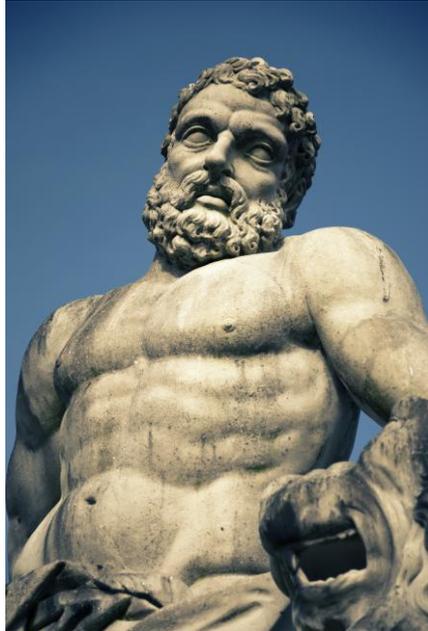
ってしまいます。妻を追って天へのぼった男は、天の神様から試練を受けます。その際、あやまってウリを縦に割ったため中から大水が湧いて、それが天の川となり、夫婦は間を隔てられて牽牛（けんぎゅう）・織女（しよくじよ）の二つの星となった、というものです。

アイヌの人たちも天の川をペツノカ（川の姿）と呼んでいるようですが、これと同じような考え方は、古くから世界中の諸民族にみられるようです。たとえば、エジプトでは、ナイル川が天の川に通じていると考え、これを「天上のナイル」と呼びました。バビロニアでも同じように考えていて、天の川を「天上のユーフラテス」と呼んでいました。

一方、ギリシア神話では、国民的英雄ヘラクレス

（写真）が赤ん坊のとき、女神ヘラの乳房を強く吸ったために乳がほとばしって天の川となったとされています。そして天の川のことを「ガラクシアス（乳の川）」と呼びました。英語の「ミルキー・ウェーMilky Way（乳の道）」という言い方はこれがもとになっています。

天の川を天上の道と考える民族もたくさんあります。エジプトでは、天の川は、女神イシスが悪神チホンに追われたときにこぼしていったムギの穂の道だといえます。また、現在のシリ



アとペルシアでも天の川を「わらの道」と呼びます。ギリシアでは神々がオリュンポスの宮殿へ集まる銀色の道と見立てていました。

さらに、天の川は死者の魂が天国へいく道である、と考える民族も多いようです。スウェーデンの「冬の道」、アメリカ原住民の「魂の道」もその例です。フィンランドでは亡霊は鳥となって天の川を飛ぶので「鳥の道」と呼んでいます。

都会では天の川を見ることは難しいですが、夏の夜空を見上げて、悠久の時に思いをはせてみるのも楽しいかと思えます。参考文献 『ジャパンナレッジ利用』 『日本国語大辞典』 『日本大百科全書』 『世界大百科事典』

## 祭礼・祈禱などの案内

### ○次回甲子祭

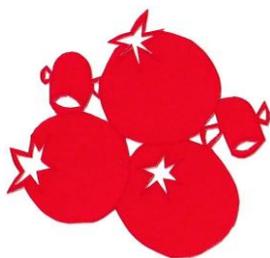
令和七年八月二十三日（土） 午前五時～正午

○開運千人講祈禱祭 毎月一日 午前六時～正午まで

○諸祈祷受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈祷を行っております。

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは電話もしくはメールにてお願いいたします。

不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。



(連載まんが)

# 大吉うさぎ ～神社豆知識 その19～ くまこまち 作



〈お問い合わせ・お申し込み〉

携帯

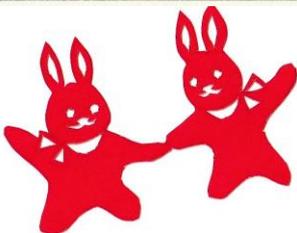
eメール

〇八〇一一九八七七八七二六

[daikokujinja@gmail.com](mailto:daikokujinja@gmail.com)

次号発行予定

「だいいこく通信第六十二号」、いかがでしたか。次号「秋の号」は、令和七年十月二十二日甲子祭に発行予定です。



「だいいこく通信」第六十二号 令和七年六月二十四日発行

編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇一〇〇〇三 東京都豊島区駒込三二二一十一

<http://www.daikokujinja.org>